

矢作川流域圏懇談会 第7回全体会議

9月 飯田市



河川敷に繁茂する竹林の利活用を先例地に学ぶ
鷺流峡プロジェクトの勉強会

11月 岡崎市



海と川へのごみの流入を減らすために
海ごみ減らそうフォーラム

4月 根羽村



中山間地振興の活動情報を共有・ネットワークづくりを支援
山村再生担い手づくり事例集交流会

9月 豊田市



流域一体化に向けたイベントに参加
矢作川感謝祭

日時：平成30年3月20日 14：30～16：30
場所：西三河総合庁舎

全体会議の次第

1. 開会
2. 全体会議座長あいさつ
3. 矢作川流域圏懇談会とは
4. 本日の話し合いのポイント
5. 確認事項（意見交換）
 - (1) 懇談会の運営方針
 - (2) 各部会の活動成果
 - (3) 流域連携テーマ・イベントに関する成果
6. 協議事項①
 - (1) 次年度の各部会の活動方針
 - (2) 流域連携テーマに関する活動方針
 - (3) 河川整備フォローアップについて
7. 協議事項②
 - ・平成30年度以降の矢作川流域圏懇談会の体制についての意見交換
8. まとめ・連絡事項・情報共有など
9. 閉会

3. 矢作川流域圏懇談会とは ①

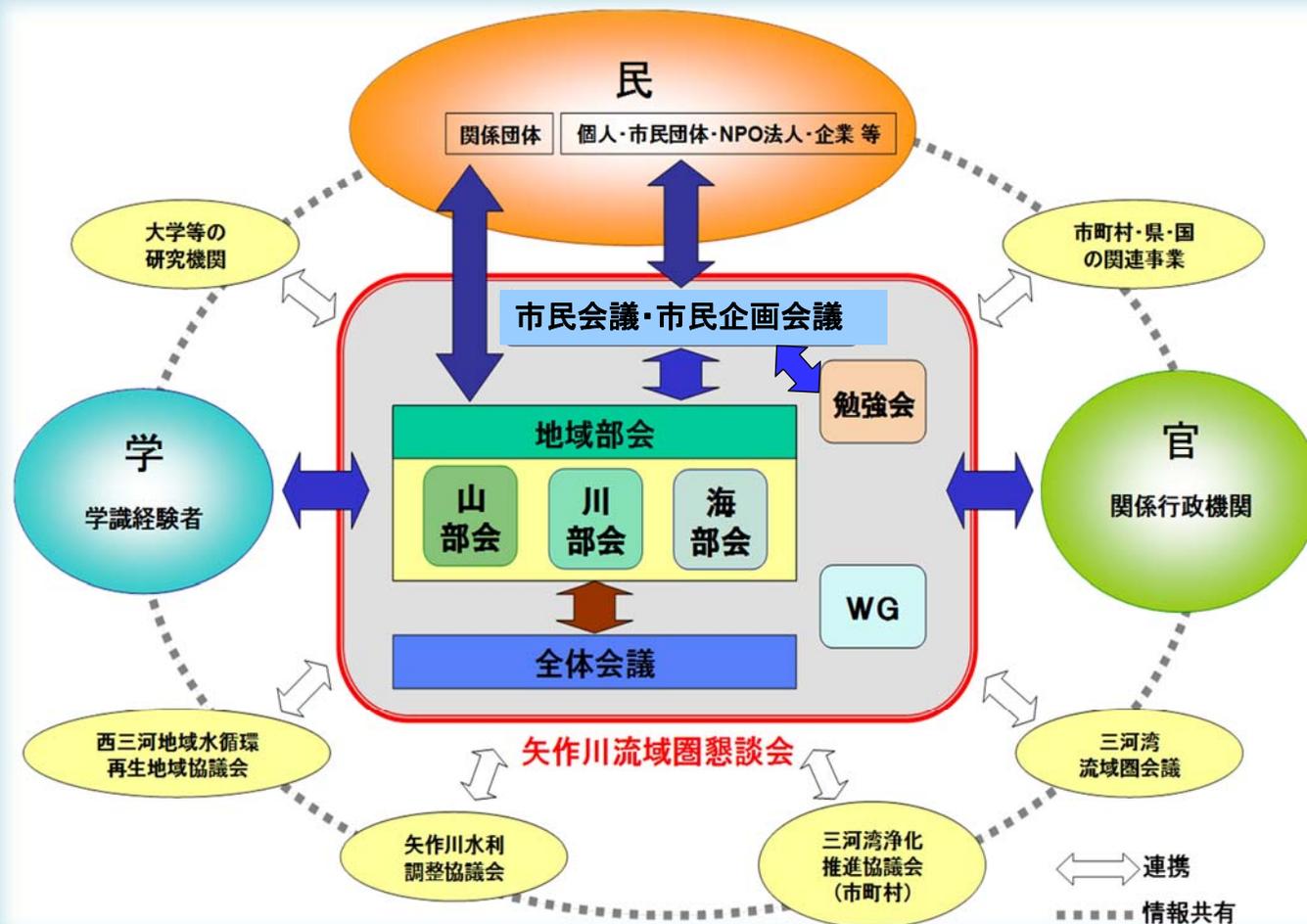
矢作川流域圏のあり方を検討する視点

“流域は一つ、運命共同体”

102組織 339名が登録 (H30.1時点)

懇談会発足時 (H22.10)
70組織 135名

- ①流域圏住民・関係者の連携強化
- ②流域圏住民の啓発活動
- ③行政と住民が連携した調査・研究の充実
- ④河川を中心とした流域の社会基盤形成及び地域の活性化



3. 矢作川流域圏懇談会とは ② | 平成29年度実績

会議名称	役割	今年度の実施日・回数
WG《ワーキンググループ》 (必要に応じて)	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて開催し、具体的な課題への対応や協議・情報共有 	山：7回 川：8回 海：3回
流域連携に関わるイベント	<ul style="list-style-type: none"> 流域一体化の取り組みに関するイベントへの主催・参加 	平成29年4月15日 事例集交流会2017 平成29年9月2日 2017矢作川感謝祭 平成29年11月25日 海ごみ減らそうフォーラム
勉強会 (必要に応じて)	<ul style="list-style-type: none"> 活動団体の活動発表の場、情報交換の場として活用し、流域全体の取り組みに向けての連携のきっかけを作る 懇談会の中で挙げられた課題の解決を行う上での学びの場としても活用（有識者によるレクチャーや事例研究など） 	平成29年9月9日 天竜川鷲流峡 ：放棄竹林の活用方法
市民会議 (年に1回開催)	<ul style="list-style-type: none"> 住民の視点から、具体的な課題の提起や課題解決のアイデア出しなどを行う 山・川・海の部会ごとの個別の課題や連携に向けた話し合いの場 勉強会の企画について話し合いを行う場 	平成29年12月22日
地域部会 (年3回開催)	<ul style="list-style-type: none"> 流域圏を山・川・海・の3つに分け、それぞれの地域特性に応じた課題の明確化とその解決手法を話し合う 民・学・官の3者が公平な立場で意見交換・情報共有を行う場 	山：平成30年1月22日 川：平成30年1月23日 海：平成30年1月24日
全体会議 (年に1回開催)	<ul style="list-style-type: none"> 各部会で検討した課題やその解決手法を流域全体としてとりまとめ、情報を一元化するとともに、部会へのフィードバックを行う 部会で検討した内容を総合調整する場 	平成30年3月20日

4. 本日の話し合いのポイント

1. 確認事項

- (1) 懇談会の運営方針
- (2) 各部会の活動進捗報告
- (3) 流域連携テーマ・イベントに関する成果

話し合いのポイント

- ・各部会（地域部会）の今年度の活動成果と課題について、メンバーからの補足説明や意見交換を行う。
- ・流域連携テーマやイベントについて、今年度の活動進捗成果と課題について、意見交換を行う。

2. 協議事項①

- (1) 各部会の今後の活動方針
- (2) 流域連携テーマに関する活動方針
- (3) 河川整備計画フォローアップについて

話し合いのポイント

- ・各部会の活動方針に関わる不明な点について、質疑応答を行う。
- ・今後の活動方針やフォローアップを進める上での意見交換を行う。

3. 協議事項②

- ・平成30年度以降の矢作川流域圏懇談会の体制についての意見交換

話し合いのポイント

- ・9年間の総括をどのように行うか、10年目以降の活動をどのような体制で行うか意見交換を行う。

5-1. 懇談会の運営方針について①

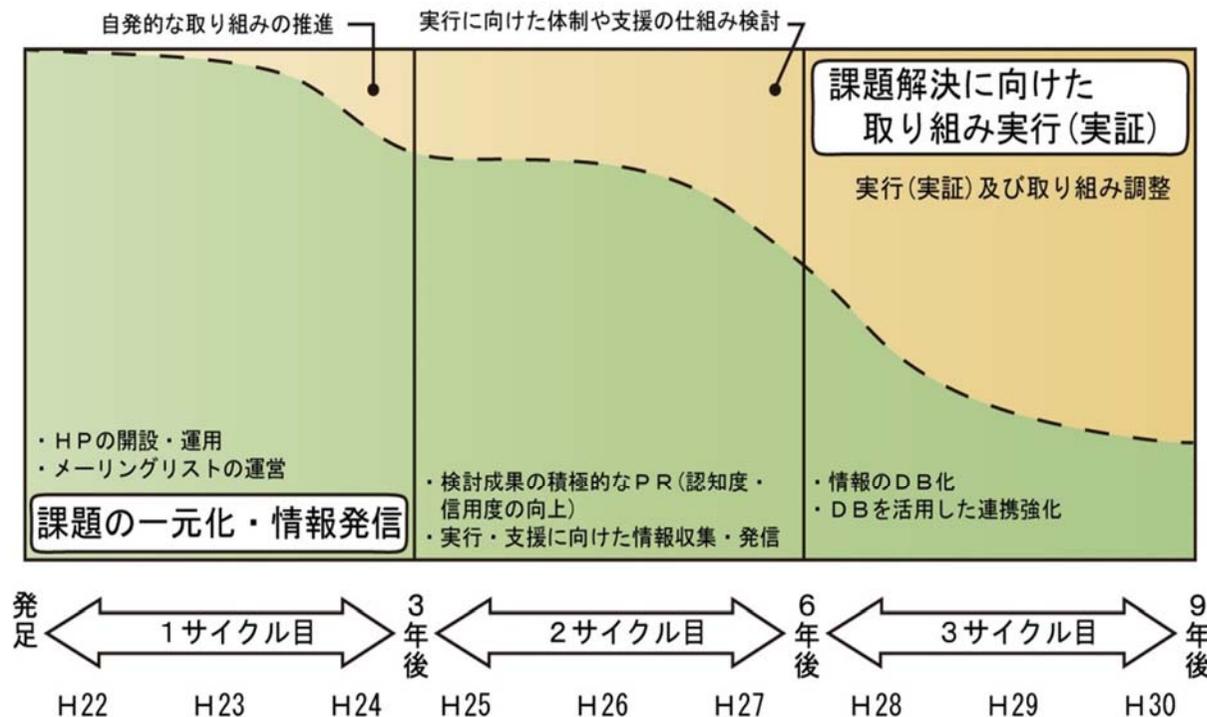
【懇談会設立時の目的・運営方針】

懇談会の目的

- 矢作川流域圏に関係する各組織のネットワーク化を図る
- 流域圏一体化の取り組み及び矢作川の河川整備に関わる情報共有・意見交換を図る

懇談会の運営方針

- 懇談会は、3年に1サイクルで総括を行いながら運営
- 平成28年度からは、3サイクル目の「課題解決に向けた取り組み実行（実証）」へシフト



5-1. 懇談会の運営方針について②

【現状】

(1) 課題解決に向けた山・川・海部会の活動が活発化

- 各部会とも課題解決に向けた具体的な活動を行い、成果がより明確化している。

(2) 流域連携テーマを新たに立上げ（H26～）

- 流域連携に関する取組みについて、「ごみ・流木」「土砂」「木づかい」が各部会や市民会議を通して進められている。

- 流域に関わるイベントを開催・参加して、上下流の連携がより進展した。

(3) 河川整備計画のフォローアップ

- 「河川整備に関わる情報共有・意見交換」の取組みを全体会議で情報共有している。

5-1. 懇談会の運営方針について③

【懇談会の目標①】

(1) 各部会の活動成果の見える化

- 平成28年度から、課題解決に向けた実行(実証)を行っていく段階となっている
- これまでの各部会の活動成果を見える化することで、目標を明らかにしていく
 - 産官民学が果たすべき役割も見えてくる
 - 一層の活動進捗・合意形成につながる

部会	成果の見える化に向けた取組み内容
山	①流域圏担い手づくり事例集の作成、ホームページへの掲載による発信 ②山村ミーティングでは、林業従事者の考えを収集、流域を意識したイベントの実現 ③森づくりガイドライン、木づかいガイドラインの作成に向けた検討
川	①段差解消のための堰上げ式魚道の状況把握及び改善方法の確認・提案 ②流域圏担い手づくり事例集の山部会と協働した取り組み、ホームページへの掲載
海	①「藤前干潟エクスカージョン」に矢作川流域圏懇談会として参加 ②海の生物資源の減少問題について、関係機関の担当者等を交えた議論の実施

5-1. 懇談会の運営方針について④

【懇談会の目標②】

(2) 山・川・海の相互理解の促進

- 各WG活動の他部会への参加の積極的な呼びかけ
- 連携イベントの主催・出展（事例集交流会2017、2017矢作川感謝祭、海ごみ減らそうフォーラム）



事例集交流会2017（根羽村）



2017矢作川感謝祭（豊田市）



海ごみ減らそうフォーラム（岡崎市）

(3) 流域連携テーマ検討の具体化

- 市民会議における流域連携テーマ・イベントの話し合いの中で、各部会に望むことを話し合い、地域部会にフィードバックする

5-1. 懇談会の運営方針について⑤

【懇談会の目標③】

(4) 河川整備計画のフォローアップの改善

- 平成27年度までは、整備量（率）からみた達成状況をフォローアップとして実施してきたが、平成28年度以降はフォローアップの取組みを通じて流域圏一体化につなげることを目指す。

- | | | |
|-----------------|---|--|
| ①整備量（量）からみた達成状況 | → | アウトプット指標化による効果の把握 |
| ②流域圏懇談会との関わり | → | 流域圏一体化に向けてどのように活用されたかを定性的に把握
(例 現地見学、調査モニタリング、事業への提案など) |
| ③整備による効果の発現状況 | → | 流域圏懇談会の活動を通じて得られた整備効果の把握
(例 再生した干潟や樹木（竹林）伐開のモニタリングなど) |

5-2. 懇談会の活動進捗報告

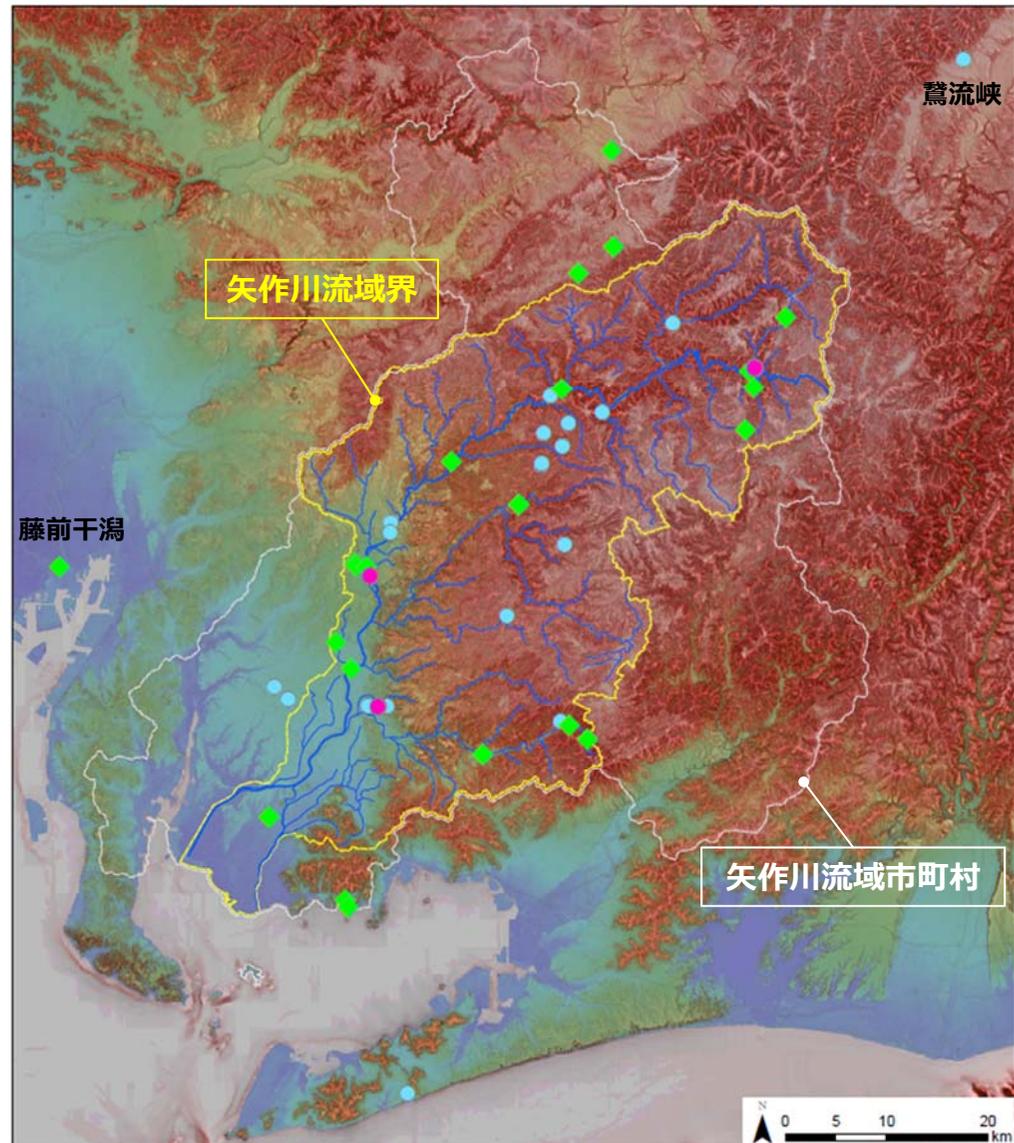
H29年度における懇談会の活動・検討箇所

矢作川流域圏の上流から下流まで幅広く活動を行った。
また、流域圏を越えた交流や勉強会も行った。

◆ WG・フィールドワーク・勉強会の実施箇所
合計31箇所
(山部会、川部会、海部会)

● 流域圏担い手づくり事例集の取材先
合計21団体
・山に関する担い手：12団体
・川に関する担い手：9団体

● 流域連携イベントの開催箇所
・事例集交流会 (根羽村)
・矢作川感謝祭 (豊田市)
・海ごみ減らそうフォーラム (岡崎市)



5-2. 山部会の活動進捗報告 | 3ヶ年の目標

3ヶ年（H28～30）の目標

- WGの中で山村再生担い手づくり事例集について、よりPR力のあるものにする
- 山村ミーティングや木づかいガイドライン等とWGの中で山村再生担い手づくり事例集によって築かれた人間関係とを連携させて、流域が関わるイベントを実施する
- WGの中で森づくりガイドラインについて、矢作川や水源かん養機能に配慮した森づくりの理念と具体的な方策を発信する
- WGの中で木づかいガイドラインの策定を行い、流域における水平展開を山部会構成メンバーで実行する

<テーマ>

<解決手法>

①山村再生担い手づくり事例集

森林の適切な管理は山村再生が重要。まずは人づくりに取り組む。

②山村ミーティング

山村再生を支援する取組みへの参加・情報共有を行う。

③森づくりガイドライン

流域圏として統一性のある森林管理を行うためのガイドラインを作る。

④木づかいガイドライン

矢作川の森の恵みが中下流・海まで届くガイドラインを作る。

5-2. 山部会の活動進捗報告 | 平成29年度の活動スケジュール

山部会の活動として、WGを7回と地域部会を1回開催した。

活動（参加者数）	日時	場所
第39回WG（22名）	5月19日（金）～20日（土） 14:00-	（恵那） ・恵那市岩村振興事務所 会議室ほか
第40回WG（21名）	6月23日（金） 14:00-17:00	（豊田） ・豊田森林組合庁舎 第2・3会議室
第41回WG（17名）	7月28日（金）～29日（土） 14:00-	（根羽） ・根羽村ネバーランド サンホールほか
第42回WG（13名）	9月8日（金）～9日（土） 13:00-	（恵那） ・岐阜県恵那総合庁舎 5階5A会議室ほか
第43回WG（42名）	10月13日（金）～14日（土） 14:00-	（岡崎） ・岡崎市ぬかた会館 2階2～3会議室ほか
第44回WG（11名）	11月10日（金） 13:30-16:30	（根羽） ・根羽村老人福祉センター「しゃくなげ」
第45回WG（17名）	12月15日（金）～16日（土） 14:00-	（豊田） ・豊田森林組合庁舎 第2・3会議室ほか
第9回山の地域部会（26名）	1月22日（月） 14:00-17:00	（岡崎） ・岡崎市ぬかた会館 2階2～3会議室

5-2. 山部会の活動進捗報告 | テーマ別の活動成果

①流域圏担い手づくり事例集 | 今年度の活動方針に対する進捗状況

事例集交流会の実施

～取材者、取材先、流域圏懇談会、読者のネットワークをいっそう広げ、深めることをめざして～

- 山村再生担い手づくり事例集交流会2017を4月に開催し、参加者の関係が深まる有意義なイベントになった。
- 事例集の参加者が新たに懇談会メンバーに加わり、その後のWGに参加するなど、ネットワークが広がった。



事例集交流会実施全景



流域の担い手との共演風景



懇親会の実施風景

- 次年度の事例集交流会2018について、現在検討を進めている。

開催日：平成30年4月14日（15日にかけて宿泊を予定）

場 所：佐久島

対 象：流域再生担い手づくり事例集（山村再生担い手づくり事例集）に掲載された団体と取材者

内 容：活動状況の報告および意見交換など

5-2. 山部会の活動進捗報告 | テーマ別の活動成果

①流域圏担い手づくり事例集 | 今年度の活動方針に対する進捗状況

＜「その後いかがお過ごしですか？プロジェクト」の実施 ～事例集Ⅱを対象として～＞

- 懇談会9年目を見据えて、山以外の担い手にも視野を広げる必要性があると判断されたため、川部会の地先モデルと連携して、川の担い手にも取材を行うことを優先した。
- テーマの名称を「山村再生担い手づくり事例集」から「流域圏担い手づくり事例集」に変更した。



川部会における意見交換（連携）



団体への取材風景

【取材先21団体】 緑：山の関係団体、青：川の関係団体

〈長野県〉：1団体

- ・鷲流峡（がりゅうきょう）復活プロジェクト（飯田市）

〈岐阜県恵那市〉：1団体

- ・なつかしい未来の会（恵那市）

〈愛知県〉：19団体

- ・農家民泊ちんちゃん亭（豊田市） ・いこまハウス（豊田市） ・矢作川天然アユ調査会（豊田市） ・小渡セイゴ水辺愛護会（豊田市）
- ・合同会社木かんしゃ（豊田市） ・矢作川漁業協同組合中和支部（豊田市） ・敷島自治区（豊田市）
- ・古岸水辺公園愛護会（豊田市） ・山恵（豊田市） ・橋の下世界音楽祭実行委員会（豊田市）
- ・めえーぷるファーム（豊田市） ・足助きごり塾（豊田市） ・和合自治区（豊田市）
- ・有限会社ファナビス（岡崎市） ・NPO法人岡崎まち育てセンター・りた（岡崎市） ・ぬかた体験村（岡崎市） ・内藤連三（安城市）
- ・森を再生する会（安城市） ・環境ボランティアサークル亀の子隊（田原市）

＜山村ミーティングや木づかいガイドライン等、他のテーマとの連携の深化＞

- 事例集交流会の参加者に矢作川感謝祭への参加を募ったり、川部会の地先モデルと協働するなど、他のテーマとの連携を深めた。

5-2. 山部会の活動進捗報告

テーマ別の活動成果

②山村ミーティング | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<森林組合作業班員を対象とした100人ヒヤリングの実施>

- 10月以降、岡崎森林組合、豊田森林組合管内におけるヒヤリングを開始した。ヒヤリングの対象は、森林組合作業班にとどまらず、業者、事業体にもおよび、およそ120人規模になることを想定している。
- ヒヤリングの内容は、実に多様で深い。色々な課題があることがわかってきた。とりまとめは、次年度以降を予定している。



ヒヤリング時の作業風景

<矢作川感謝祭を流域全体のまつりと位置づけ、実施できるよう実行委員のメンバーとして企画>

- 山部会のメンバーも実行委員に加わるとともに、流域の上下流の農林業に係る人々がイベントに参加した。
- 豊田市の川のお祭りから、流域を対象としたイベントに進化した。



木のアイテムの展示（根羽村森林組合）



高性能林業機械による実演（豊田森林組合）



岡森フォレストーズによる演奏（岡崎森林組合）

<流域圏担い手づくり事例集や木づかいガイドラインなど、他のテーマとの連携の深化>

- 事例集交流会における矢作川感謝祭のPRやイベントにおける木づかい推進を通じて、他テーマとの連携に努めている。

5-2. 山部会の活動進捗報告 | テーマ別の活動成果

③ 森づくりガイドライン | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<行政（岡崎市、豊田市）における森づくりについて、WGとして把握し、情報共有のための意見交換実施>

- 岡崎市においては、緑のダム部会からの答申を受けて、市の組織改編があり、新設された森林企画係においては、水循環の議論と保全啓発活動を行うことが周知された。
- 豊田市においては、森づくり構想の見直しに伴う5つの重点事項の周知と、中核製材工場の稼働開始を見据えた動きや森づくり会議の果たす役割について、情報共有と意見交換を行った。
- 国の森林環境税をめぐる動きについて、間伐から皆伐へのシフトおよびビジネスの対象となっていない森林の公的管理について、情報共有を行った。
- 九州北部豪雨の災害に触れ、東海豪雨との比較を行うとともに、行政の森づくりの対応について情報共有を行った。



豊田市の森づくり構想の見直しに関する情報共有



岡崎市の水循環施策に関する情報共有



九州北部豪雨の状況と森づくりに関する情報共有

5-2. 山部会の活動進捗報告 | テーマ別の活動成果

③ 森づくりガイドライン | 今年度の活動方針に対する進捗状況

＜水循環基本法に基づく健全な水循環の維持・回復を目標として、水の貯留・かん養機能の向上や土砂の流出抑制を図るため、矢作川流域の独自性を加味した森づくりガイドラインの作成の取り組み＞

- 以下の、森づくりガイドラインに盛り込む項目案のうち、1～3における素案が周知され、意見交換を行った。

【ガイドラインに盛り込む項目案】

1. 矢作川流域の森づくりについての基本的な考え方（木材生産と公益的機能のバランス、森林所有者や市民の責務など）
2. 皆伐一斉造林についての考え方（風化花崗岩地帯では、10～20年後に崩壊のリスク増大、搬出方法（架線系・道路系）、二ホンジカ食害リスク）
3. 搬出間伐についての考え方（間伐率、搬出方法（架線系・道路系））
4. 伐り置き間伐についての考え方（置き方など）
5. 溪流沿いの人工林についての考え方（流木リスク軽減のための樹木除去など）
6. 尾根筋の人工林についての考え方（針広混交林化など）
7. 広葉樹二次林についての考え方
8. その他

＜その他＞

- 研究成果の発表を通して、流域の森林の現状を把握した（信州大学農学部）。
- 森づくりに係わるフィールドをワークを行い、流域内外の森林や林業の現状を学んだ。

- ①信州大学研究フィールド（根羽村） ②帯状間伐の実施状況（根羽村）
- ③天竜川における竹林管理（飯田市） ④あさひ森の健康診断報告会（豊田市）



信州大学研究フィールド



帯状間伐の実施状況



放棄竹林の伐採後の森林



あさひ森の健康診断報告会

5-2. 山部会の活動進捗報告

テーマ別の活動成果

④木づかいガイドライン | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<流域ものさしと私の流域物語を使って、ひとり一人が流域の魅力を発揮>

- 流域ものさしの活用実績と今後の改善箇所、取組みの目標について意見交換を行った。
- 私の流域物語については、今後進める予定である。

<木のアイテム（おもちゃ）を使い、旬の時期に旬のお祭りの開催>

- 根羽村森林組合の「スギダラキャラバン」では、年間40箇所程度（流域内外合せて）の地域に出前授業を行った。
- 豊田森林組合では、名古屋市や豊田市の市街地で、地域材のPR活動を実施したことが情報共有された。
- 岡崎市では、人道橋（木造橋）や支所の新築に額田産材が使われることになっており、最新の情報が共有された。

<流域の魅力を創造する市民創造、労働参加型プロジェクトへの取り組み>

- 「根羽村田舎の親戚制度実施要項」の原案を村の委託事業により根羽村森林組合が作成した。

<市民労働参加型プレイスメイキングプロジェクト>

- あそべるとよた4daysでは、豊田市立図書館と地元商業施設Tフェイスと連携して、根羽スギを使った「どこでもライブラリー」を展開し、本のある空間を創出した。



流域ものさしに関する議論



安城市における木づかい推進



どこでもライブラリー（本箱づくり）

5-2. 山部会の活動進捗報告 | テーマ別の活動成果

④木づかいガイドライン | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<木づかいガイドライン策定に向けた活動の情報共有>

- 「さあ~しよう」という提案型の原稿作成の依頼書について、市民編として流域圏担い手づくり事例集の関係者（取材先団体）、イベント実施時に関係者に呼び掛けるなど、具体的な対象者および回答例が周知され、意見交換を行った。

【木づかいガイドラインの意図するところ】

- ①市民、行政、業界、研究機関の各関係者と有志が流域内の「木づかい推進」に一体感・共感・共通認識を持って取り組むこと
- ②現在流域内の各地で行われている様々な立場の方の魅力的で楽しい「木づかい」の取組みを「見える化」すること
- ③「見える化」された木づかい推進活動の有志の方々と「人の輪」をつくること「繋ぐ」ことがとても大切で、ここに流域で取り組む市民活動化の意義がある
- ④その「人の輪」による様々な化学反応により、流域内の各地で市民に「木づかい」に対する魅力や楽しさを伝え、共感と活動を呼び起こすこと
- ⑤木づかい提案者ひとり一人の培ってきた森や木に対する経験値を重視し、提案者とその受け手がチームとなって、木づかいの主役と立役者のコンビで木の魅力を発信していくこと
- ⑥山村再生担い手づくり事例集にあるような様々な地域の様々な山村・里山活動家が「木づかい推進」というテーマで「繋がり」、それぞれが主役になって「木づかいネット網」として連携し、すべての年代層を対象にした「木づかい」の原体験を与えること
- ⑦「木づかいガイドライン」を手にとると、すぐに行動したくなるような「さあ~しよう」という市民目線に沿った提案とすること
- ⑧日本人として木の文化を身近なものにすること

<その他>

- 木づかいに係わるフィールドをワークを行い、流域内外の木材や竹林の利活用について学んだ。

①やまおか木の駅(恵那市) ②放棄竹林の利活用(飯田市) ③ちんちゃん亭(豊田市)



やまおか木の駅・薪の駅の見学（恵那市）



放棄竹林の利活用（飯田市）



木を使った遊び場の創出（豊田市）

5-3. 川部会の活動進捗報告 | 3ヶ年の目標

3ヶ年（H28～30）の目標

- これまでの検討をもとに、他地区、他支川へのモデルとなる取組みをとりまとめ、流域圏全体に対して広く情報共有、情報発信していく。
- 具体的な取組み箇所について、継続的なモニタリングと順応的管理を実践する。
- 関係する委員会、自治体、団体と継続的に意見交換することにより、積極的な連携を進めていく。

<テーマ>

生き物の棲みやすい
川づくり（上下流問題）

多様な物理環境と生物生息環境の創出

地域の人々と川との関係を中心
とした、地先の課題
（河川空間の利用・保全のあり方）

<解決手法>

①本川モデル

- ・加茂川水門下流の段差改善を目的とした魚道の検討
- ・矢作川総合土砂管理対策の情報共有
- ・河川整備対策に対しての事業者との意見交換
- ・アユの生息環境改善に向けた取組みの情報共有

②家下川モデル

- ・家下川湛水防除事業における計画確認と情報共有
- ・ひょうたん池の水量確保・水質改善方法等の検討

③地先モデル

- ・『流域圏担い手づくり事例集』作成活動への参加
- ・豊田市水辺まちづくり計画の情報共有

5-3. 川部会の活動進捗報告 | 平成29年度の活動スケジュール

川部会の活動として、WGを8回、地域部会を1回開催した。

活動（参加者数）	日時	場所
第38回WG（25名）	5月26日（金） 13:00-17:30	豊田市職員会館 3階会議室
第39回WG（21名）	6月30日（金） 13:00-16:00	豊田市上郷交流館 会議室
第40回WG（14名）	7月18日（火） 15:00-17:00	豊田市職員会館 3階会議室
第41回WG（16名）	8月23日（水） 14:00-16:00	豊田市職員会館 3階会議室
第42回WG（24名）	9月29日（金） 13:30-16:30	西尾市役所 多目的室
第43回WG（18名）	10月27日（金） 13:30-16:30	豊田市職員会館 2階会議室
第44回WG（20名）	11月28日（火） 13:30-17:00	豊田市職員会館 3階会議室
第45回WG（14名）	12月19日（火） 15:00-17:00	豊田市職員会館 3階会議室
第9回川の地域部会（17名）	1月23日（火） 14:00～16:00	豊田市職員会館 2階会議室

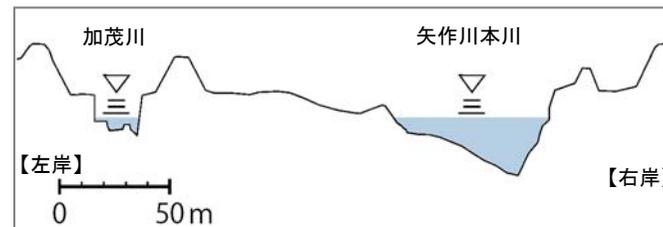
5-3. 川部会の活動進捗報告

平成29年度の活動成果

①本川モデル | 今年度の活動方針に対する進捗状況

＜加茂川水門下流の段差改善を目的とした魚道の検討＞

- 昨年度から加茂川水門下流段差解消対策において堰上げ式の魚道を整備中であり、今年度は魚道の一部に改良を加え、流況に変化を与えるなど、魚がのぼりやすい環境を創出した。
- 第1回施工後にWGにおいて現地確認と意見交換を実施した。



矢作川本川と加茂川の横断図 (39.0k)



今年度の改良状況



堰上げ式魚道施工状況

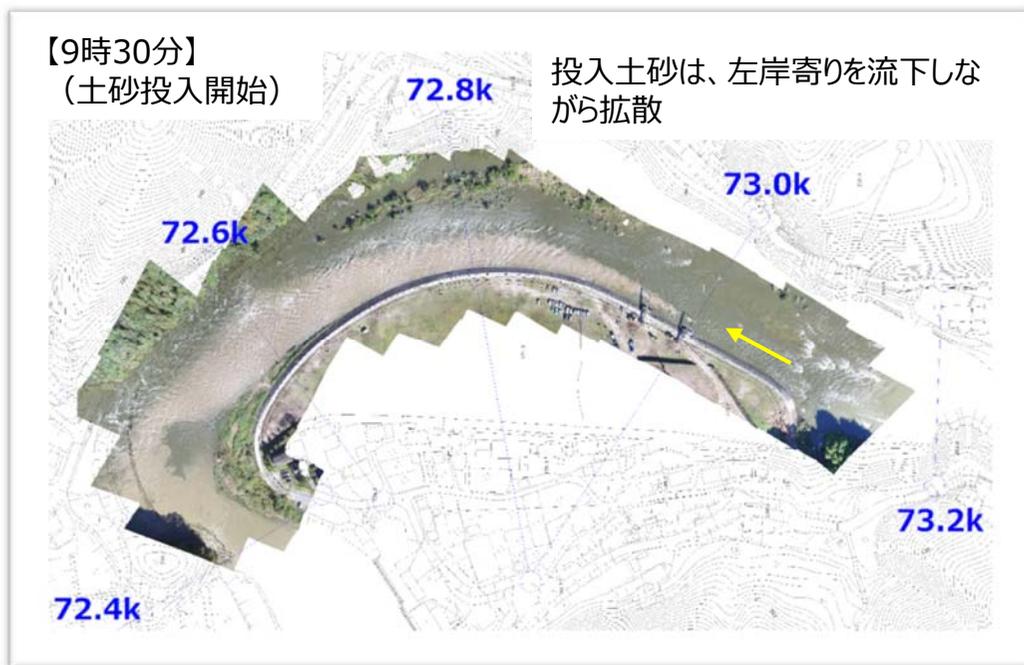
5-3. 川部会の活動進捗報告

平成29年度の活動成果

①本川モデル | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<矢作川総合土砂管理対策の情報共有>

- 矢作川総合土砂管理計画策定のために行っている給砂実験の状況について情報共有を行った。



実施日：平成29年10月23日
実施時間：9時30分～15時30分
給砂量：1972.8m³



給砂実験の実施状況

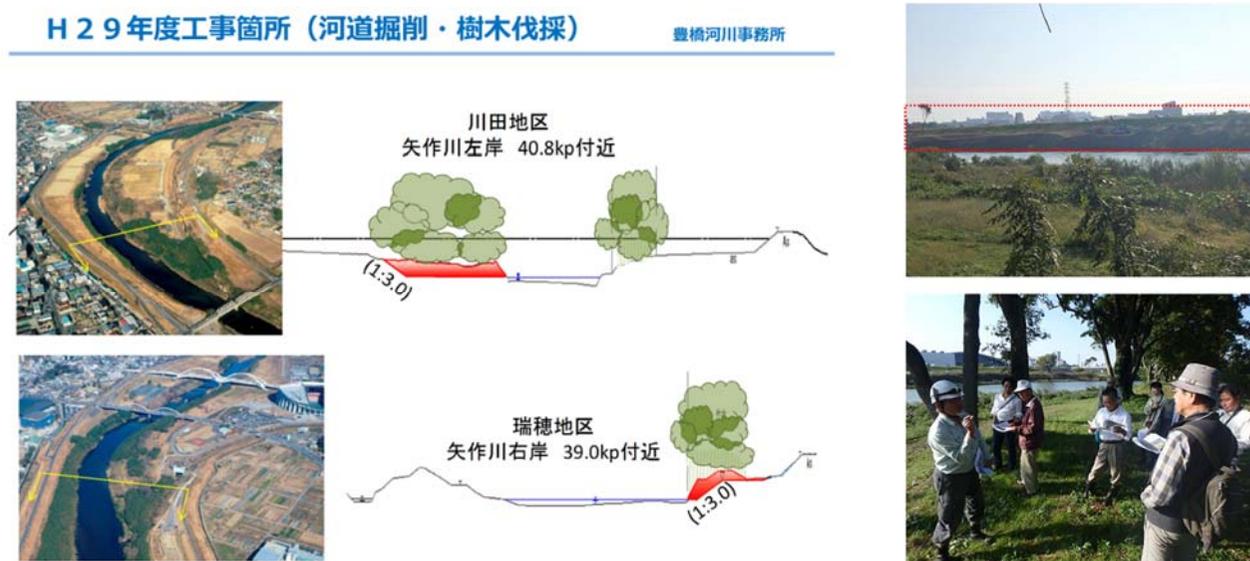
5-3. 川部会の活動進捗報告

平成29年度の活動成果

①本川モデル | 今年度の活動方針に対する進捗状況

＜河川整備対策に対しての事業者との意見交換＞

- 矢作川本川で国交省が進める河川事業（河道内の土砂掘削、樹木伐採）の施工状況について、現地見学を行い、環境への配慮状況について意見交換を行った。水際に変化を設けるなど、生物の生息に適した設計となっていることがわかった。
- 矢作川古川との合流点に整備した分派施設および矢作古川に新設（愛知県施工）された魚道の現地視察を行い、施設整備による魚類の生息状況の変化や魚道の整備効果などについて意見交換を行った。



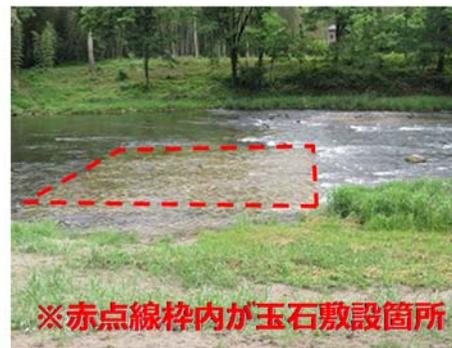
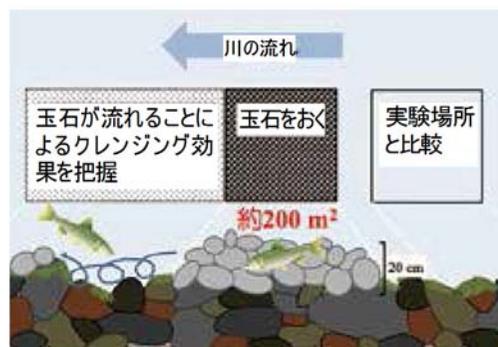
5-3. 川部会の活動進捗報告

平成29年度の活動成果

①本川モデル | 今年度の活動方針に対する進捗状況

＜アユの生息環境改善に向けた取り組みの情報共有＞

- 矢作川研究所の山本研究員および内田座長から、天然アユ生態調査実行委員会が取り組む阿摺ダム下流でのアユ生息環境改善実験の概要と結果についての講話を受け、河床環境の改善による効果と今後の取組みについて意見交換を行った。礫（矢作ダム流入部の礫）の投入が、アユや底生動物の生息に寄与することを学んだ。



資料：阿摺ダム下流アユの生息環境改善実験内容



懇談会メンバーによる視察の状況（平成29年5月、11月）

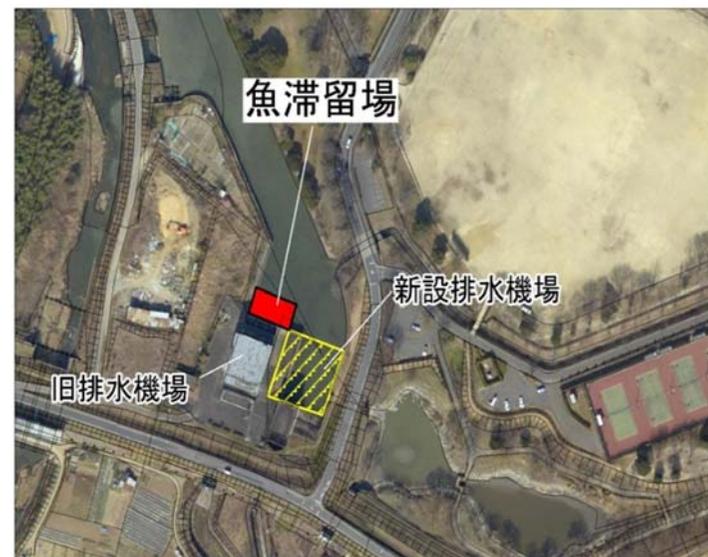
5-3. 川部会の活動進捗報告

平成29年度の活動成果

②家下川モデル | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<①家下川湛水防除事業における計画確認と情報共有>

- 愛知県豊田加茂農林水産事務所を招へいし、家下川湛水防除事業（上郷2期地区）の設計内容および今年度の施工状況について説明をいただき、昨年度の意見交換内容の反映状況を確認した。その結果、川部会からの要望事項であった下記2点に配慮した計画であることを確認し、魚の生息に配慮した計画となっていることを確認できた
- 今年度の施工状況について現地視察を行い、工事による濁水防止対策の実施状況を確認し、意見交換を行った。



家下川湛水防除事業における計画位置図（工事完成時）



家下川湛水防除事業の工事实施状況（平成29年6月）

5-3. 川部会の活動進捗報告

平成29年度の活動成果

③地先モデル | 今年度の活動方針に対する進捗状況

・『流域圏担い手づくり事例集』作成活動への参加

- 流域連携の一環として、山部会が取り組む「流域圏担い手づくり事例集」について、洲崎さんから紹介をいただき、今年度の事例集作成活動に川部会会員有志が参加した。
- 事例集の取材対象に川関係団体を取り上げてもらった。
- 矢作川研究所の吉橋研究員にヒアリング手法を紹介いただいた。



【取材対象となった川関係の活動団体】

- | | |
|-------------------|---------------------|
| ①矢作川漁業協同組合中和支部 | ⑥矢作川天然アユ調査会 |
| ②古崩水辺公園愛護会 | ⑦小渡セイゴ水辺愛護会 |
| ③故・内藤連三さんをよく知る人 | ⑧森を再生する会 |
| ④環境ボランティアサークル亀の子隊 | ⑨NPO法人岡崎まち育てセンター・りた |
| ⑤橋の下世界音楽祭実行委員会 | |

<豊田市水辺まちづくり計画の情報共有>

- 豊田市が計画する「豊田市水辺まちづくり計画」について、豊田市から概要を説明していただき、豊田市中心部と矢作川を連携し、川を題材とした街づくりの活性化対策について情報共有を行った。

5-4. 海部会の活動進捗報告 | 平成29年度

3ヶ年（H28～30）の目標

- 山部会、川部会との合同WGの場を年1回以上は設置するとともに、会員同士の交流を深め、部会間の各会員が協働して具体的な活動を実践する。
- 矢作川をフィールドとして環境活動を実践している団体、個人の方には本懇談会活動への参加を依頼し、同志の輪を広げる。
- 矢作川流域の山、川、海で活動する人、団体が気軽に集まることができ、みんなで情報を共有し、外部に発信することができる活動拠点の場をつくる。

<テーマ>

<解決手法>

ごみ・流木の問題

海ごみ、川ごみ問題での課題を共有する

豊かな海の生物調査

海の生物資源の減少問題について認識を共有する

海と人の絆再生

懇談会として『三河湾大感謝祭』に参加する

干潟・ヨシ原再生

造成干潟での生物モニタリングを継続的に実施する

5-4. 海部会の活動進捗報告 | 平成29年度の活動スケジュール

海部会の活動として、WGを4回と地域部会を1回開催した。

活動（参加者数）	日時	場所
第34回WG（19名）	6月24日（土） 10:00-15:30	・藤前干潟 ※藤前干潟エクスカージョンに参加
第35回WG（19名）	8月21日（月） 9:30-11:30	・東幡豆漁業協同組合 会議室
第36回WG（19名）	12月13日（水） 14:00-16:00	・西尾市役所会議棟 第2会議室
第9回海の地域部会（17名）	1月24日（水） 15:00-17:00	・西尾市役所水道庁舎 会議室

5-4. 海部会の活動進捗報告

平成29年度の活動成果

①ごみ・流木の問題 | 今年度の活動方針に対する進捗状況

〈海ごみ、川ごみ問題での課題の共有〉

- 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会主催の「藤前干潟エクスカージョン」に参加し、藤前干潟の清掃活動やごみ焼却場「南陽工場」を見学した。
- 小学生や幼児など親子で参加されている方も多く、普段の生活の中で出されるごみについて家族で話し合うきっかけづくりになるなど、環境教育の場としての効果が高いことを認識した。



海岸清掃



ごみの回収



南陽工場の見学



グループ討議

5-4. 海部会の活動進捗報告

平成29年度の活動成果

②豊かな海の生物調査 | 今年度の活動方針に対する進捗状況

〈海の生物資源の減少問題について認識を共有する〉

- 鈴木副座長から水質の貧栄養化と海の生物資源量に関する最近の傾向に関する話題提供をいただき、近年の三河湾における課題について情報共有を行った。

【三河湾の課題】

アサリの漁獲量の減少は、下水処理センターの稼働条件とリンクしており、窒素やリンの過剰な浄化が、アサリの栄養不足および死滅に影響を与えていると考えられている。

- 井上委員から八郎潟や油が淵での水質浄化に関する研究事例と水質浄化対策の技術的課題について話題提供を行っていただいた。

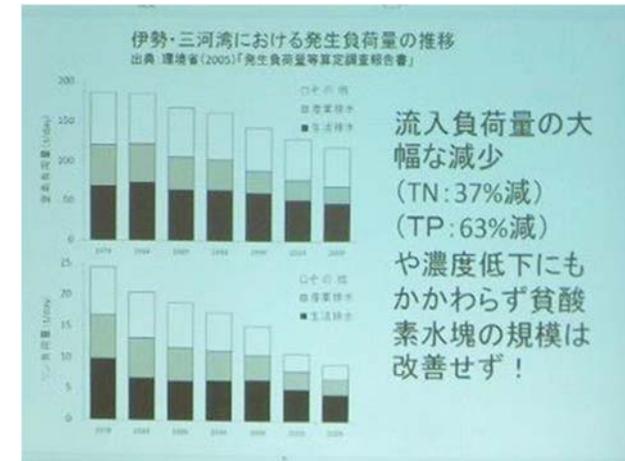
【研究事例】

泥干潟の改善にフルボ酸・鉄・シリカ資材を用いており、アサリが減った場所に置くと砂と貝殻の底質に戻っているという効果が確認されている。

- 高橋委員から鳥と海の環境の関係について話題提供を行っていただいた。

【話題提供】

鳥は餌場となる海の環境が悪くなれば、その場所に渡ってくる鳥も減るものであり、愛知県で減少したのは矢作川河口である。埋め立てて高水敷地や砂浜がなくなり、餌が減少したことが影響している。



鈴木副座長による話題提供

5-4. 海部会の活動進捗報告

平成29年度の活動成果

③海と人の絆再生 | 今年度の活動方針に対する進捗状況

＜懇談会として『三河湾大感謝祭』に参加する＞

- 愛知県が主催する三河湾大感謝祭（10月29日（日）蒲郡市民会館）に山・川・海の流域連携のテーマとして参加することになった。
- ただし、開催当日は天候不良のため、の開催が中止となった。

④干潟・ヨシ原再生 | 今年度の活動方針に対する進捗状況

＜造成干潟での生物モニタリング継続的に実施する＞

- 東幡豆で開催した8月WG時に、参加した部会員でトンボロ干潟に造成したダム砂による人工干潟を視察した結果、干潟の生物資源量は減少したが、生息基盤は維持されていることがわかった。



国土地理院撮影の空中写真（2006年5月撮影）

5-5.流域連携テーマ・イベントに関する成果 | 平成29年度

【流域連携テーマに関する成果①】

平成26年度の活動では、勉強会において「ごみ・流木」「土砂」「木づかい」の3つの課題が抽出された。その後、部会の枠を越えた河川整備計画の内容や現地視察等の勉強会を通して、基礎的な知識を共有するとともに、山・川・海の相互理解が図られてきた。

平成29年度は、主にWGで流域連携テーマに関する活動を行った。

① ごみ・流木問題

- 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会主催の「藤前干潟エクスカージョン」に参加し、藤前干潟の清掃活動やごみ焼却場「南陽工場」の見学など“ごみ”を通じて環境を学ぶことができた。
(第34回海部会WG)
- 愛知県主催の「海ごみ減らそうフォーラム」に参加し、猿渡川・家下川のごみの実態確認、関係機関（国、NPO等）の取り組み、参加者によるワークショップ（グループ討議）を通じて、参加者がごみを減らす必要性について再認識した。
(H29.11.25開催)



藤前干潟の清掃作業



海ごみ減らそうフォーラムのグループ討議の様子

5-5.流域連携テーマ・イベントに関する成果 | 平成29年度

【流域連携テーマに関する成果②】

② 土砂問題

- 阿摺ダム下流（ソジバ）におけるアユの生息環境改善実験を視察し、河床のアーモコート化の改善や生物相の回復状況について意見交換を行った。礫置き区（矢作ダム流入部の礫）で、アユおよび底生動物（現存量）が増加していることがわかった。（第38回、第44回川部会WG）
- 市民会議では、天竜川における竹いかだ下りに注目して、川のいかだ下りについて議論され、同時に市民が砂を運べば、自然の動きの大切さかわかるという意見が出た。これは、過年度に議論された「砂の駅」構想につながるものである。（第8回市民会議）

③ 木づかい

- 矢作川感謝祭では、岡森フォレストーズが林業に関する歌を披露し、豊田森林組合が高性能林業機械の実演を行った。また、根羽村森林組合による木のアイテムの展示では、プレイスメイキングにより多くの親子が集まっていた。（H29.9.2開催）
- 昨年度の全体会議で配布した「流域ものさし」の活用実績と今後の活用方法について意見交換を行った。（第43回山部会WG、第8回市民会議）
- 今年度のイベントでは、どこでもライブラリー（木の本箱づくり）が新たなプレイスメイキングのツールに加わった（H29.8.19-20、11.25開催）
- 岡崎市や豊田市において、地元産材の活用事例や活用目標について、情報共有と意見交換を行った。（第9回山の地域部会）



阿摺ダム下流の現地視察状況



放棄竹林の利活用



木の本箱づくり

6-1. 山部会の活動計画案

部会の3ヶ年の目標（平成28年度～平成30年度）

- WGの中で山村再生担い手づくり事例集について、よりPR力のあるものにする
- 山村ミーティングや木づかいガイドライン等とWGの中で山村再生担い手づくり事例集によって築かれた人間関係とを連携させて、流域が関わるイベントを実施する
- WGの中で森づくりガイドラインについて、矢作川や水源かん養機能に配慮した森づくりの理念と具体的な方策を発信する
- WGの中で木づかいガイドラインの策定を行い、流域における水平展開を山部会構成メンバーで実行する

テーマ別の活動目標（案）

来年度も、地域持ち回りのWGにおいて、以下の4つのテーマの情報共有と意見交換を行う。WGの開催は月1回の実施を目標とし、必要に応じて勉強会を開催する。

①流域圏担い手づくり事例集

- ・事例集の取材者、取材先、流域圏懇談会、読者のネットワークをいっそう広げ、深めることを目指した事例集交流会を4月に実施する。
- ・川部会、海部会を巻き込んだ流域全体の担い手を発掘する活動とする。

②山村ミーティング

- ・森林組合作業班を中心とした100人ヒヤリングを進める。
- ・矢作川感謝祭を流域全体のまつりと位置づけ、さらに発展させていく。
- ・流域圏担い手づくり事例集や木づかいガイドライン等、他のテーマとの連携を深める。

6-1. 山部会の活動計画案

③森づくりガイドライン

- ・矢作川流域の森林が直面している課題と、その解決に向けた具体的な提案を、河川管理者、沿岸漁業者、流域住民にわかりやすく示し、広く共通認識を形成することを目的とした「森づくりガイドライン」作成に取り組む。
- ・森林経営管理法、森林環境贈与税などの国の動きに惑わされることなく、流域市町村の森林施策の着実な進行を後方支援し、流域圏全体として調和のとれた森づくりを目指す。
- ・水循環基本法に定められた森林の雨水浸透能力又は水源涵養能力の整備について、矢作川流域における関係省庁や自治体の施策をフォローアップする。

④木づかいガイドライン

- ・流域内の身近な木を利用した木づかいが推進されるように「木づかいガイドライン」を作成する。
- ・矢作川の流れを絆として、個人の思い出を込めて流域が一体となることの大切さを伝えるアイテム「矢作川流域ものさし・私の流域物語」をすすめる。
- ・「矢作川流域ものさし・私の流域物語」の理念とは、「流域はひとつ運命共同体」・「水を使うものは自ら水をつくるべし」といった全国にも通用する矢作川の流域思想であり、こうした思想と共にある矢作川流域圏懇談会の取り組みについて、全国の流域関係者に向けて発信する。
- ・「私の流域物語」に記載された物語に関わる場所等での「木づかいライブ スギダラキャラバン(木育キャラバン)」の実施や、個人の思い出を尊重した木づかいによる市民創造型・労働参加型・課題解決型プロジェクトを実施する。
- ・木づかいを通して、矢作川の流域材を活用した楽しい「木のある暮らし」を定着させる。

6-2. 川部会の活動計画案

部会の3ヶ年の目標（平成28年度～平成30年度）

- これまでの検討をもとに、他地区、他支川へのモデルとなる取組みをとりまとめ、流域圏全体に対して広く情報共有、情報発信していく。
- 具体的な取組み箇所について、継続的なモニタリングと順応的管理を実践する。
- 関係する委員会、自治体、団体と継続的に意見交換し、積極的な連携を進めていく。

テーマ別の活動方針（案）

①本川モデル

- 加茂川水門下流の段差改善を目的とした魚道の検討
- 矢作川総合土砂管理における給砂実験結果の情報共有
- 河川整備対策に対しての事業者との意見交換
- アユの生息環境改善に向けた取組みの情報共有
- 河川環境に関する基礎資料を用いた将来のあるべき姿に関する意見交換の実施

②家下川モデル

- 家下川湛水防除事業における進捗状況モニタリングと情報共有
- ひょうたん池の水量確保・水質改善方法等の検討

③地先モデル

- 『流域圏担い手づくり事例集』作成活動への参加
- 豊田市水辺まちづくり計画の情報共有

6-3. 海部会の活動計画案

部会の3ヶ年の目標（平成28年度～平成30年度）

- 山部会、川部会との合同WGの場を年1回以上は設置するとともに、会員同士の交流を深め、部会間の各会員が協働して具体的な活動を実践する。

テーマ別の活動目標（案）

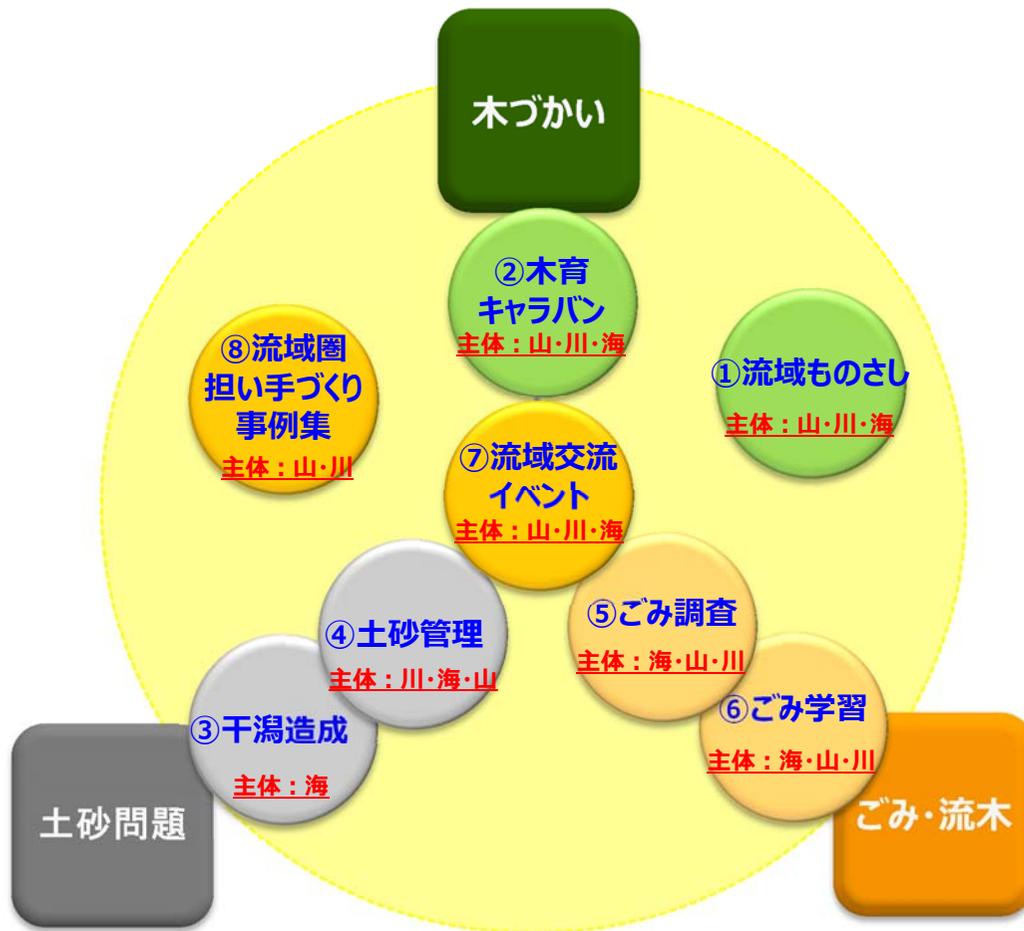
■ 豊かな海の再生

- 三河湾のアサリの資源回復に関する現状の課題について認識を共有し、解決に向けた取り組みを検討する。

6-4.流域連携テーマ・イベントに関する活動計画案

【流域連携テーマに関する活動計画】案

流域連携テーマに係る活動として、以下の3項目を中心に市民会議、地域部会WGや合同部会等で取り組む。



木づかい

①流域ものさし等のアイテム
流域ものさしと私の流域物語を使って、ひとり一人
が流域の魅力を発信する。

②木育キャラバン
市民労働参加型プレイスメイキングプロジェクトを
考える。

土砂問題

③干潟造成
ダム・河川掘削土砂の活用と各事業者連携の推進

④土砂管理
矢作川総合土砂管理の情報共有

ごみ・流木

⑤ごみ調査
NPO等の川ごみ・海ごみ調査への協働

⑥ごみ学習
愛知県が取り組むごみ学習プログラム等の活用

⑦, ⑧流域圏交流
矢作川流域圏一体化の取り組み、相互理解、情報共有や意見交換を図るため、「矢作川感謝祭」などのイベントへの参加や開催、
また「流域圏担い手づくり事例集」の作成により、人と人との交流をはかる。

11. 河川整備計画フォローアップについて

実施項目

- ① 河川整備計画の概要
- ② 過去の主要な洪水
- ③ 治水（洪水、高潮等による災害の発生の防止または軽減に関する事項）
現地での意見交換情報共有
- ④ 利水（河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項）
情報提供 等
- ⑤ 環境（河川環境の整備と保全に関する事項）
勉強会、現地でのヨシ植え 等
- ⑥ 土砂管理（総合的な土砂に関する事項）
情報共有、勉強会 等

矢作川河川整備計画パンフレットより

調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けた取り組み

流域圏 流域圏一体化の取り組みに関する事項

流域圏住民・関係者の連携強化

- 河川管理者が中心となり矢作川流域圏に關係する各組織のネットワーク化を図り連携を強化していきます。
- 流域圏住民と関係者間の交流を深めるため、流域圏内で各組織や団体が行っている川づくり、森づくり等の活動に関する情報発信を支援し、住民参加を促進させます。
- 各組織や団体が行っている森林保全、水質保全、三河湾再生に向けた取り組み等について、今後のさらなる充実に向け行政、住民、学識者等が情報共有、意見交換を実施し、さらに課題を解決するための場として新たな枠組み（流域圏懇談会（仮称））を検討していきます。

流域圏住民の啓発活動

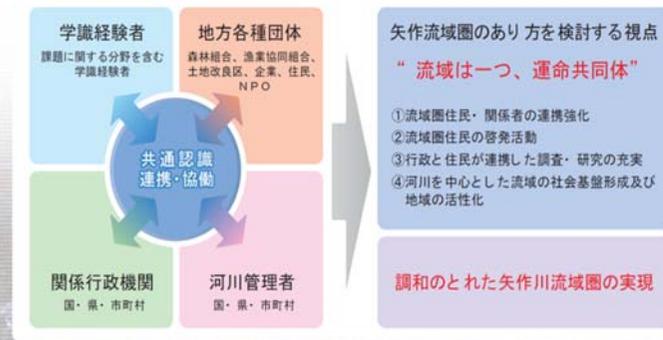
- 矢作川流域圏に関わる者の“流域は一つ、運命共同体”という意識を醸成するため、行政及び住民が流域圏におけるそれぞれの役割を認識するための啓発活動に協力します。
- 住民の防災意識向上のため、過去の災害の経験、知識を活用し、県・市町村と連携した防災学習や防災訓練等を実施するとともに洪水・土砂災害ハザードマップの作成・公表の支援を行います。
- 企業、住民・NPO団体が実施している河川清掃等の河川愛護活動については参加促進などの支援を行い、流域圏住民の河川愛護意識の高揚を目指します。

行政と住民が連携した調査・研究の充実

- 行政・住民等が連携して定期的な環境調査や水質監視、土砂動態調査を実施し、流域の河川や森林等の現状や変化等を把握します。
- 調査で得られた情報や知見及び各機関や組織で実施された研究成果について情報の共有及び情報発信できる仕組みの構築を検討します。

河川を中心とした社会基盤形成及び地域の活性化

- 流域圏における水源地の重要性を認識し、上矢作ダムに係わる経緯を踏まえ、森林保全基金等既存組織の活用を含め、農山村の活性化に資するよう関係機関と連絡調整を図り、水源地における必要な社会資本整備を推進します。
- 流域の豊かな自然環境・風土・歴史・文化等を踏まえ、本来河川空間が有している人々のふれあい・安らぎの空間、市街地周辺における豊かな自然環境を有する空間の創出を目指し、「かわまちづくり」に資する整備を図れるよう調整・連携を行います。



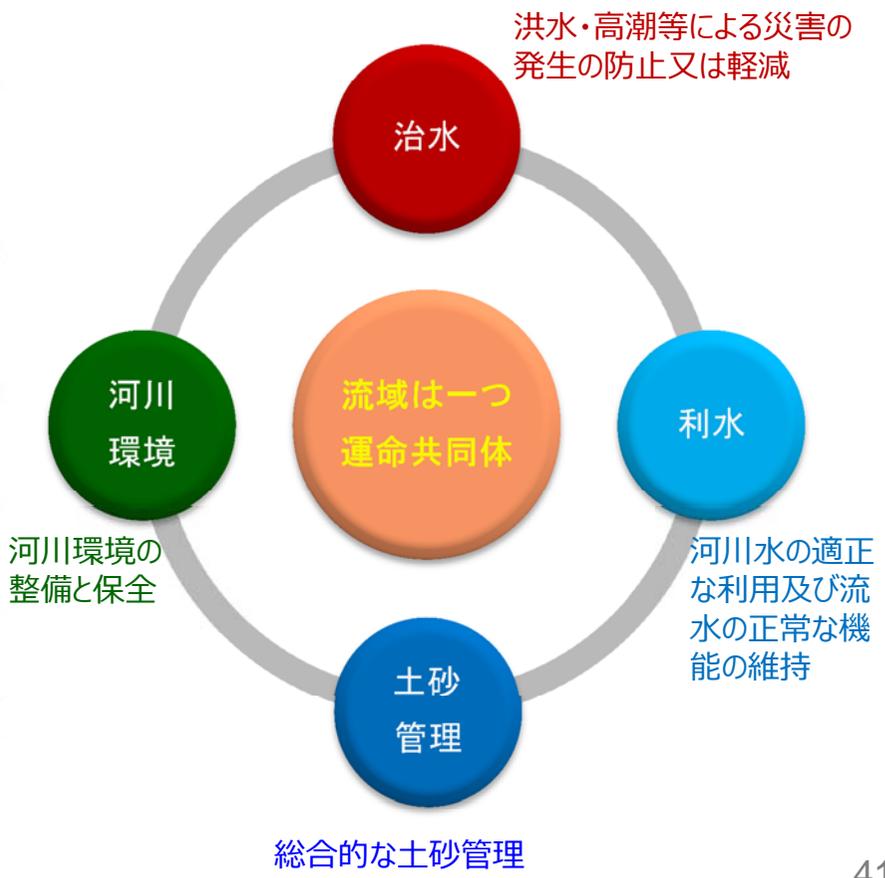
11.1 河川整備計画の概要



対象区間
大臣管理区間、並びに本計画の目標の達成に必要な施策を講じる必要がある指定区間及び流域

対象期間
整備目標に対し河川整備の効果を発現させるために必要な期間として概ね**30年間**

- 治水面・利水面の目標設定にあたっては、「矢作川水系河川整備基本方針」で示された将来計画に向け、段階的に安全河川整備計画の目標度を向上する計画目標を設定するとともに、その計画規模や整備水準を超える豪雨・高潮・濁水に見舞われたときには、被害を最小化できる信頼性の高い危機管理対策を講じていきます。
- 河川環境面の目標設定にあたっては、従来の矢作川の河川環境の特性を踏まえます。
- 土砂管理の目標設定にあたっては、土砂生産域から海岸まで流域一貫として捉えます。
- 矢作川における治水、利水、環境、総合土砂管理、維持管理等における諸課題を解決し整備計画の目標を達成していくために "流域は一つ、運命共同体" という共通認識を持ち、調和のとれた流域圏全体の持続的発展を目指します。



11.2 過去の主要な洪水

矢作川は過去に幾度も洪水氾濫を繰り返しています。
 近年では、記憶に新しい平成12年9月洪水（東海（恵南）豪雨）により、大きな被害が発生しています。
 平成12年9月洪水以降、矢作川本川では大規模な出水は発生していませんが、支川流域では平成20年8月末豪雨に代表される局所的な豪雨等により、大きな被害が発生しています。

◆主要災害一覧

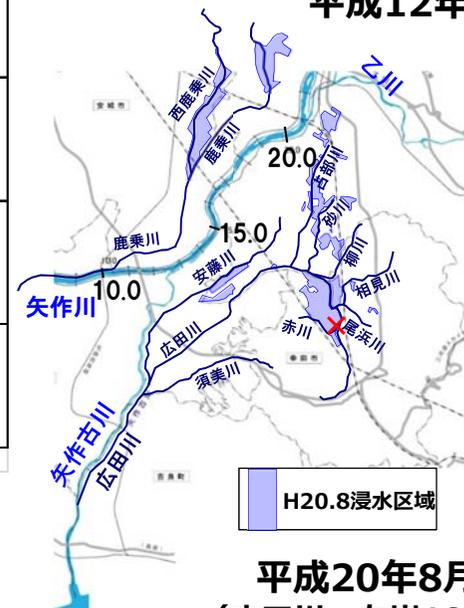
発生年月	要因	被害の内容	岩津地点実績流量
昭和34年9月	伊勢湾台風	全壊及び流失4,235棟、半壊14,188棟、 床上浸水1,990棟、床下浸水3,031棟、 水害区域面積 994ha	約3,600m ³ /s
昭和36年6月	台風と前線	全壊及び流失6棟、半壊53棟、 床上浸水371棟、床下浸水1,090棟、 水害区域面積 5,709ha	約3,300m ³ /s
昭和44年8月	台風7号	全壊及び流失3棟、 半壊床上浸水147棟、床下浸水478棟、 水害区域面積 2,738ha	約3,100m ³ /s
昭和47年7月	梅雨前線及び 台風6, 7, 9号	全壊及び流出452棟、 床上浸水3,877棟、床下浸水16,399棟、 水害区域面積 3,004ha	約2,600m ³ /s
平成12年9月	東海（恵南）豪雨 （秋雨前線及び 台風14号）	全壊及び流失26棟、半壊23棟、 床上浸水790棟、床下浸水1,962棟、 水害区域面積 1,798ha	約4,300m ³ /s [6,200m ³ /s]
平成20年8月	平成20年8月末豪雨	全壊及び流失5棟、半壊0棟、 床上浸水951棟、床下浸水1,927棟、 水害区域面積 547ha	約740m ³ /s

出典：S34「愛知県災害誌」、S36年以降「水害統計」

[]書き：ダム戻し流量



平成12年9月洪水



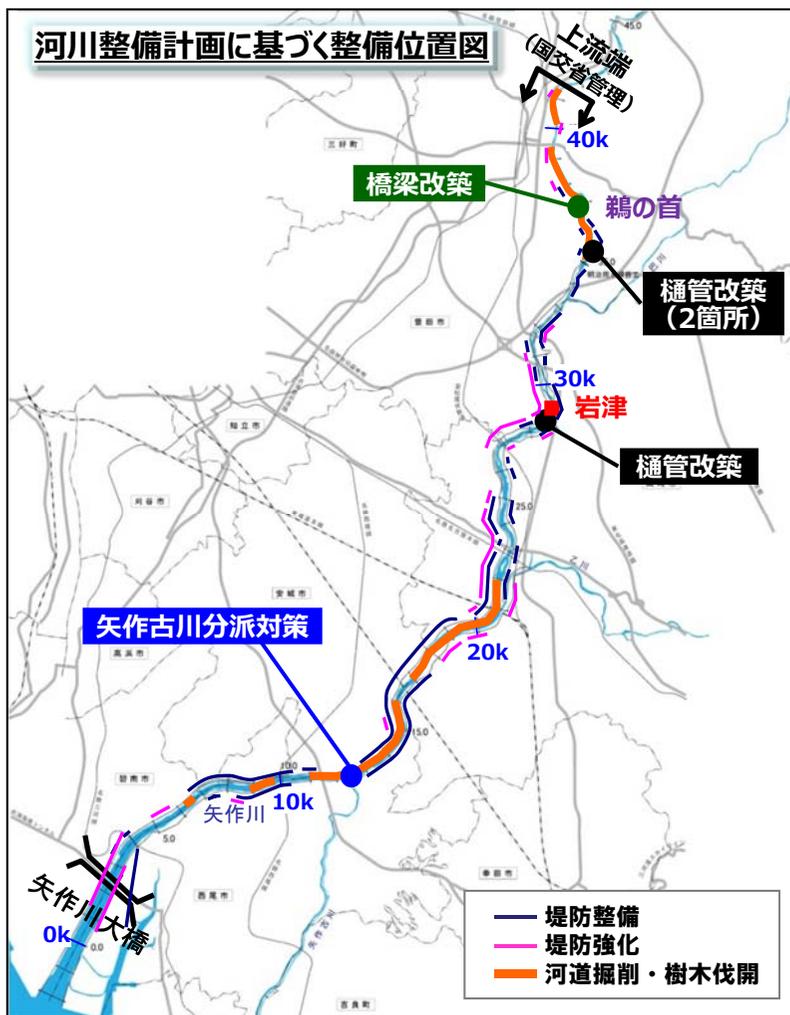
平成20年8月洪水
 (広田川：左岸10km付近)



11.3 治水① | 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項

■ 目的及び計画内容

基準地点岩津において、矢作川の戦後最大洪水（平成12年9月洪水）と同程度の規模の洪水が発生しても、安全に流下させることを目的としています。
 矢作川は、豊田市内の鵜の首狭窄部をはじめ、各所で東海（恵南）豪雨に対する河道の流下能力が不足しており、堤防整備や河道掘削等が必要です。



◆ 河川整備計画において目標とする流量と河道整備流量

河川名	基準地点名	河川整備計画 目標流量	洪水調節施設 による 洪水調節量 (矢作ダム)	河道整備流量	備考
矢作川	岩津	6,200m ³ /s	600m ³ /s	5,600m ³ /s	平成12年9月洪水対応

◆ 河川整備計画（概ね30年間）での主な整備内容

整備項目	全体
堤防整備・堤防強化	46 km
河道掘削	270 万m ³
樹木伐開	27 万m ²
矢作古川分派対策	1 箇所
橋梁改築	1 箇所
樋管改築	3 箇所

※堤防強化には浸透対策、護岸整備を含む

◆ 費用対効果 B/C=35.7 (H24再評価時)

流域圏懇談会との関わり：【整備計画 第3章 河川の整備の実施に関する事項】
 ……地域住民や関係機関との情報の共有を図りつつ河川整備を実施する。

11.3 治水② | 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項

■ 事業の進捗状況（河川工事）

◆河川整備計画策定以降の主な河川改修箇所



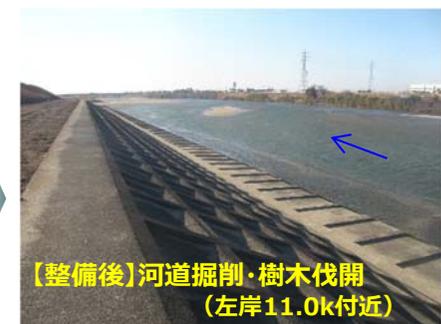
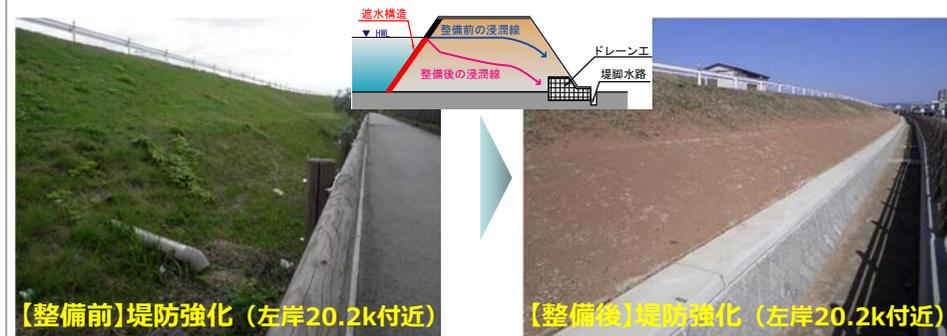
◆河川整備計画にて計上された主な事業の実施状況

整備項目	事業全体	H24年度末完成	H27年度末完成
堤防整備・堤防強化	46 km	9 km	16 km
河道掘削	270 万m ³	30 万m ³	36 万m ³
樹木伐開	27 万m ³	4 万m ³	16 万m ³
矢作古川分派対策	1 箇所	—	1 箇所
橋梁改築	1 箇所	流域圏懇談会との関わり： 現地視察や意見交換	
樋管改築	3 箇所		

※堤防強化には浸透対策、護岸整備を含む

平成28年3月末時点

◆堤防強化の整備イメージ



11.3 治水③ | 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項

■ 流域圏懇談会との関わり

◆ 河川整備計画にて計上された主な事業の実施状況

整備項目	事業全体	H24年度末完成	H27年度末完成
堤防整備・堤防強化	46 km	9 km	16 km
河道掘削	270 万m ³	30 万m ³	36 万m ³
樹木伐開	27 万m ²	4 万m ²	16 万m ²
矢作古川分派対策	1 箇所	—	1 箇所
橋梁改築	1 箇所	流域圏懇談会との関わり： 現地での意見交換や見学	
樋管改築	3 箇所		

※堤防強化には浸透対策、護岸整備を含む

平成28年3月末時点

◆ 流域圏懇談会との意見交換



2017年6月

◆ 流域圏懇談会における河道掘削・樹木伐開状況の見学



地域住民との協働による樹木伐開箇所の見学

2017年10月



2017年7月



久澄橋付近における河道掘削状況の見学

2017年10月

11.3 治水④ | 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項

■ 事業の進捗状況（維持管理）



護岸の点検



異常を早期発見するための
堤防除草



不法投棄の監視



出水時の巡視

◆ 堤防の健全性を点検

堤防の亀裂、法崩れ、漏水などの異常箇所を早期に発見するため、堤防除草や、出水期前の堤防点検を実施します。

流域圏懇談会との関わり：

◆ 維持管理における樹木の伐採

河道内樹木の維持管理伐採において、有識者と合同の伐採樹木の現地確認や意見交換を行っています。

◆ 災害の未然防止

洪水時においても堤防や護岸の状況を監視し、以上が発見された場合は速やかに水防工法等による緊急措置を実施できるように巡視を行い、破堤等による深刻な被害の発生を未然に防ぎます。

流域圏懇談会との関わり：【整備計画 第3章 第2節 河川の維持の目的、種類及び施工の場所】
…地域住民や関係機関との調整・連携を図りながら、適切な維持管理を行う。

11.4 利水

| 河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

■ 進捗状況

- 日常的な水量の監視を行うとともに、取水実態の把握を行っています。
- 許可水利権について、水利権更新時に使用水量の実態や給水人口の動向などをふまえた適正な水利権の許認可を実施しています。
- 矢作川水利調整協議会を開催し、水利調整を実施しています。
- 矢作川における河川の適正な流水管理や水利用の現状と課題をふまえ、河川環境の保全や適切で効率的な取水が行われるように、日頃から関係機関及び水利使用者と情報交換を実施しています。

流域圏懇談会との関わり：【整備計画 第3章 第1節 第2項 河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項】
…河川流量やダム貯水量等の情報を、インターネット等を活用し水利関係者、関係機関及び地域住民等に対して広く提供する。

11.5 環境 | 河川環境の整備と保全に関する事項

■ 事業の進捗状況（矢作川自然再生等）

■ 事業の目的

矢作川は、かつて砂州が卓越する河川であり、河口部には干潟、ヨシ原が広がり、良好な生物の生息生育場となっていました。砂利採取による河床低下や護岸整備などにより、このような環境が減少しました。

このため、河口部において干潟やヨシ原の再生を図り良好な河川環境を創出します。

また、中流部においては、親水護岸整備、高水敷整備などを実施することにより、親水やレクリエーションの場などとして安全に利活用できる水辺空間を形成します。

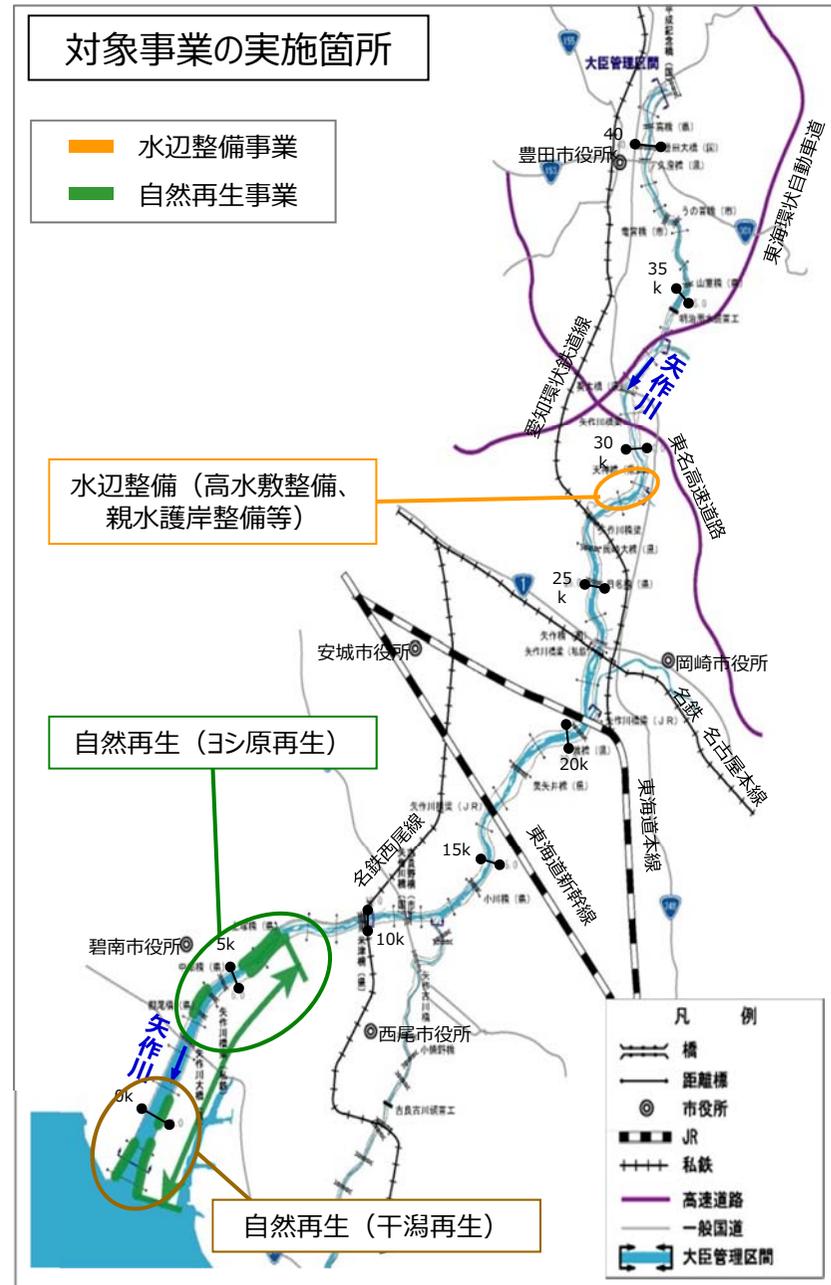
■ 事業の概要

- ・事業区間：矢作川(愛知県)
- ・建設工期:平成15年度～平成32年度
- ・全体事業費：約26.5億円
- ・整備内容：
 - 水辺整備（高水敷整備、親水護岸整備等）
 - 自然再生（干潟再生、ヨシ原再生）
- ・費用対効果：
 - B/C=3.3（H24再評価時）

流域圏懇談会との関わり

：【整備計画 第3章 第1節 第3項 河川環境の整備と保全に関する事項】

…地域住民や関係機関等と調整・連携し、バランスの取れた自然環境の保全と河川空間の適正な利用を図る。



11.6 土砂管理

総合的な土砂管理に関する事項

流域圏懇談会との関わり
：勉強会等

矢作川水系総合土砂管理計画策定に向けて（技術的な課題と検討の進め方）【平成27年5月 矢作川水系総合土砂管理検討委員会】より

◆目的

矢作ダム領域、発電ダム領域、河川領域など、各領域での対策をうまく連携させることによって、上流山地領域から河口・海岸領域までを含めた流砂系全体の土砂に関わる課題を解決していくことを目的としています。

◆基本方針

- ①流砂系一貫した土砂の連続性を可能な限り確保する。
- ②洪水等から流域を守る治水機能を維持・確保する。
- ③利水機能を維持・確保する。
- ④良好な河川環境を目指す。
- ⑤長い歴史の中で成立してきた矢作川の人々の営みとの関わりあいにも配慮する。
- ⑥総合土砂管理に係る全体コストの最小化を図るとともに、流砂系全体の便益の最大化を目指す。

領域全体

山から海までの土砂流下のつながりを保つ

- ・流砂系一貫した土砂の連続性を可能な限り確保しつつ、全体コストの最小化、流砂系全体の便益の最大化

河川領域

災害の防止と環境保全

- ・現状の治水安全度を維持し、さらなる治水安全度を確保
- ・かつての河川環境や現在の河川環境を参考にした今後の矢作川にとって良好な河川環境

河口・海岸領域

干潟の保全と再生

- ・多様な生態系を有する干潟
- ・干潟・浅場の保全や回復

上流山地領域

山を治めつつ適度な土砂流下を促す

- ・土砂災害の防止、大規模出水による発生土砂の抑制
- ・土砂の連続性の観点から、土砂災害を起こさない程度の土砂の流下

矢作ダム領域

ダムの機能をまもる

- ・ダム貯水池機能の維持・確保

発電ダム領域

災害の防止と環境保全、利水機能の保全

- ・治水安全度の維持・確保
- ・砂河川への変化を許容しながら、アユなどの生息に適した礫床環境や瀬淵機能が持続する環境
- ・発電ダムの取水・放水口の閉塞等による利水機能障害の防止



7. 平成30年度以降の懇談会の体制について

【市民会議における意見】

○ 懇談会の運営・実績について

- 事務局は豊橋河川事務所のままである方がよい。産官学民の形を維持しやすいこと、**懇談会で発せられた意見が行政に伝わりやすい**ためだ。
- 流域圏懇談会が始まった当初は、半信半疑で会員になったが、**想像以上に意見が行政に通じることがわかった**。**山川海の横のつながりも増加し、実績はかなり上がっている**と感じる。

○ 新たなイベントと人のつながりについて

- **川をいかだで下りながら、流域の人や物を実体験**できるというアプローチは面白いのではないか。
- 山部会で作った**事例集があるので、興味・関心があれば、その人に会いに行ける**。
- 矢作川にはダムがあるから、パーツに分ける必要があるが、駅伝みたいな感じで、竹や木のいかだで下る競争をしてはどうか。それができれば、**全国放送するくらいのニュースになる**だろう。
- 川下りをイベントにしようというのは非常に良い提案だと思う。その際、弁当と一緒に砂を運べば、**どれだけ大変な作業を自然の水が運んでいる**かがわかる。過去の懇談会で議論になった**砂の運搬ができる**のではないか。

○ 多くの市民をとりこむためには？

- 矢作川のイベントについて、矢作川方式に倣い**報道機関をうまく利用**するとよく、**若い家族をはじめ、さまざまな市民を巻き込む**ことができる。

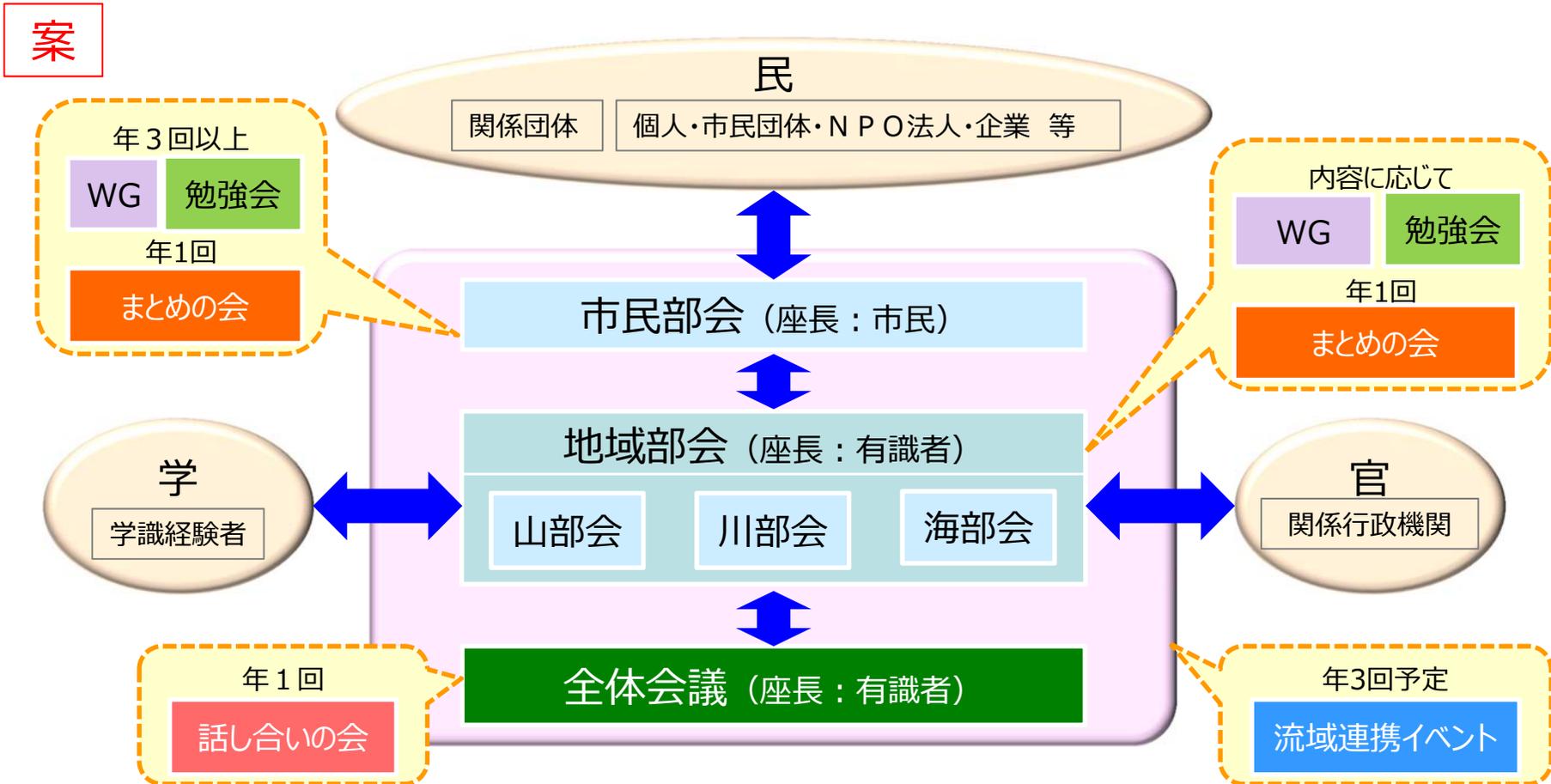
○ これからの部会員のつながり

- ここから先は、もちろん各部会も大切であるが、部会同士の横のつながりが大切だ。
- 年に数回の**市民を中心とした希望者が集まる会**を行ってはどうか。
- イベントには、部会に関係なく参加できれば良いと思われる。それには、**垣根なく行ける雰囲気**が必要だ。

7. 平成30年度以降の懇談会の体制について

■ 体制図

- これまでの地域部会（座長：有識者）と対等な関係に、市民が主体となる市民部会（座長：市民）を設置して、流域連携テーマや流域のイベントを話し合う場とする。
- 地域部会のWG等は必要に応じて開催するものとし、各部会間の合同部会を設定し、部会間の課題を話し合う。



7. 平成30年度以降の懇談会の体制について

■ スケジュール案

- **市民部会**は、12月までに**3回程度**の実施とし、流域連携テーマやイベントについて議論を行う。話し合われた内容については、地域部会にフィードバックして、情報共有と意見交換を行う。
- **地域部会WG**を設け、内容に応じて開催する。また、今まで通り総括として全体会議に向けた「まとめの会」を1月に実施する。
- 各WGの中で、**平成31年度以降に何をやっていくか**について意見を出し合い、部会ごとにとりまとめる。
- **合同部会**は、12月までに**2回程度**設け、抽出されたテーマに対して、議論を行う。
- **全体会議**を2月に設け、一年間の成果と今後の課題を話し合う場とする。
- **流域連携イベント**は、今年度実績である「事例集交流会」「矢作川感謝祭」「三河湾大感謝祭」を想定している。

体制・イベント			月										
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
市民部会	WG	勉強会		←-----→									
		まとめの会										●	
地域部会・ 合同部会	WG	勉強会		←-----→									
		まとめの会										●	
全体会議		話し合いの会											★
流域連携に関するイベント			◎					◎	◎				

調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて

矢作川流域圏懇談会では、設立から9年が経過し、関係する皆様が流域における課題や今後の方針について話し合える場が醸成されてきました。また、市民の目線に立った情報共有や、流域を超えて多くの人々を繋げるイベントが実施できるようになってまいりました。

ひきつづき、この流域圏懇談会で情報共有し、また、多くの人々を繋げるイベントが実施できるよう、ご参加・ご支援をよろしくお願いいたします。

【矢作川河川整備計画】

第3章 河川の整備の実施に関する事項

第3節 調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けた取り組み

矢作川流域では、過去から住民が一体となって流域圏という考え方のもと様々な諸課題に取り組んできた歴史がある。

今後、矢作川における治水、利水、環境、総合土砂管理、維持管理等の諸課題を解決し整備計画の目標を達成していくためにも“流域は一つ、運命共同体”という共通認識を持ち、調和のとれた流域圏全体の持続的発展を目指す必要がある。

このためには、学識者や森林組合、漁業協同組合、土地改良区、企業、市民団体、NPO等の各種団体、国、県、市町村の関係行政機関がそれぞれの役割について認識を持ち、互いに連携して諸課題の解決に取り組む必要がある。